

9月17日 13:30 岡山県倉敷市下津井 調査開始
下津井5丁目5-48 難波 肇さん

K: 旦那さんは昭和何年生まれ?

N: 12年。

K: わたしが28年生まれなんで80…

N: 83です。

K: ここの生まれですか?

N: ここで生まれて育って…うちは(漁師)僕で7代目。長男で8代。

ここの土地でうちがいちばん古い。家がなかったおりから。水が来ないのがここより上まで。

K: 高潮があっても大丈夫。

N: そう。8代前から。先代のおじいさん当時から聞いている。

うちは浜の方の土地は風が吹いたら潮がながれるから百姓のもの(畑)はつくれん。

ここの山は全部うちのもの。山なら潮は来ないから野菜もつくれる。

K: 自分で全部つくらないといけない。

N: 登記必要ない大昔の頃だから。兄弟は下の土地にいる。今は道路やらあって下の方が便利だけど。

今は山いらん。浜の方がいいけどね(笑)時代が違う。

K: 東北でも津波で昔からの住んでる山の方が助かってますものね。

おじいさんの代は時計なくてもあの星がきたら朝とか言ってた?

N: そういうことまでは聞いてないけど、自分の知恵…その時代に生きてるものの知恵かな。

うちは昔から漁師で、何時にいつて何時に戻る、手漕ぎの時代でな。

K: エビ網とか?

N: うちタコツボ、タコツボ漁。

K: そのときに朝早くから仕事はじめて、朝、星があがったとか大きな星があがったとか?

N: そういうのはきいてないけど、判断でわかるから。

夜9時行って到着くように。手ごきじゃから。10時間とか15時間とかかるから。四国まで

K: そのとき、明治の人が言ってた星の名前はあった? 浜言葉は?

N: 自分はきいてない。

K: 聞いてない? 大きな星とか星がみつつ並んでるとか。

N: 16…12、3から船に乗った。夏休みの時代にね、中学になって中3、まだ時計ない。

(風の音で聞き取り不明)

夜が明けたらどうするんじゃろうかと思ったらヨアケボシが出る。

それは親父にきいた。あの星がここまでいったら夜が明ける。

K: ヨアケボシと。親父さんは明治の生まれ?

N: 明治38年。

K: ほかに?

N: ほかの事ならおじいさんには聞いたかなあ。親父には…

(風の音で聞き取り不明)

N：おじいさんはその頃 80 過ぎてここで隠居しとった。この家も建て替えた。古かったので。

K：おじいさんには（星のことは）聞かなかった？

N：一緒に船におらんかったから。

K：三つ並んだ星とか、南の方に香川県の讃岐のほうに見える星とか、北の星とか…

N：そういうのは聞いとらんなあ

K：ごじゃごじゃと固まった星とか

N：うーん。

K：タコツボが落ちた時に、縄をあててひろう道具ありますよね…なんていう…

N：アテイカリ？

K：スマルとかいうんかな

N：そうそう。

K：スマルとは言わない？

N：漁師はアテイカリ（当て錨？）。こまいのはスマル。

K：アテイカリのこまいのはスマル、今はもう使わない？

N：スマルはようけあったけど今はない。

K：スマルに似た星はなかった？スマル言うて

N：あったんじゃろうけど、聞いたことはない。しばらくして時計が…

（風の音）

N：12、3 の頃はヨアケボシ。東の星ば見る。

K：夕方 5 時まで手で言っ、朝まで操業して…

N：手島のほうまで行く。その頃はエンジンも時計もある。

K：それはタコじゃないですよ？

N：底引き。カレイとかエビとか。晩の 5 時 6 時頃行って朝の 3 時 4 時まで一晩中

N：朝は市場へ魚おろしにいかなあかんから夜が明ける前に戻る。

あきんどさんも 4 時 5 時くるから間に合うように。

K：天秤棒で？

N：そう。天秤棒やら、僕らの時代になったら車、軽四。

K：星はヨアケボシ以外はなかった？

N：ようけ聞いとらん…いや聞いとったけど 60、70 年たったらもう記憶ない。

ようけあるスマルボシはきいたな。

K：スマルボシいいました？

N：4、5こ6つくらいぼ一ととかたまって。それは聞いた。言い寄った。

N：ヨアケボシが一番記憶ある。スマルはどんな使い方したかはわからん。子どものころに聞いたから。

（風の音）

N：漁師じゃったら手島の方へ底引きで行って手漕ぎで帰ると春は濃霧で前が見えないときがある。

親父は、スマルボシやヨアケボシ見て、うちはここにある。こっちに帰ったらここへ帰れる。

ヨアケボシは東だから。濃霧は下も前も見えん。まわりに船もそんなない。

スマル見たりヨアケボシ見て帰る。近くなったら自分のカンで。ここで帰るかとおもったら

西のコウムロのほうにいたり。そしたら岸壁沿いで戻れる。

レーダーもない時代だったから星を見て。三べんくらいあったか。子どもに舳先立たせて(山が)見えたら声出せと(言われた)。

K: 向うのコウムロ(高室)も漁師部落ですか?

N: 水島の工業地帯ができて全部やめた。

(風の音)

N: このオオムロ(大室)部落もずいぶんやめた。うちももう、年取ったし80過ぎたし
息子はやってるけど。去年(自分が)病気になって。(胃がんで)手術して…半年くらい前に。

K: 船はまだある?

N: 船はまだ2つ3つあるけど。

(風の音)

(流れてくる魚を取る。マナガツオとかオオフクとか。

30年くらいあったかな、わしが30くらいのときから。5年くらい前に辞めた

K: それも夜?

N: 昼と夜。息子には(漁の方法)教えてない。

水島の工業地できて、補償金だすから言われて辞めた家多い。海苔(養殖)だけして。

(風の音)

N: 漁業組合の組合長を15年していた。東京のほうに表彰もらいにいたり、全国視察いたり。
50ではじめて64で辞めた

K: 星はヨアケボシと目的にしたことはないけどスマルボシをきいた。5つか6つ

N: そうそう。

K: izzごろ

N: だいたい春。4月か5月かな…手島に行くのは

K: スマルも

N: そう。5月6月…8月くらいまではいった。

K: 8月も見えた?

N: 見えた。

N: 中学の夏休み、学校があっても行くことがあった。

(風の音)

N: 学校にいったら先生にどうした?って言われて夕べ船で出たから寝とらん(と言ったら)
怒らなかつた。まだ若い先生だったからまだ生きとる。下津井にいる。90いくつ。
組合長してたころにも会った。盆踊りとかの寄付のお願いに来る。(笑)

K: 盆踊りは8月?

N: そう。旧暦。

K: そのときは一晩中おどる?

N: 11じくらい

K: 唄はある?

N：もう謡い手がないからテープ。

K：星のことは唄に出てこなかった？

N：なかったなあ。

K：七夕は？

N：ここらで笹切ってきて山になんぼでもある。最近はしない

K：どんなことした？

N：紙に願い事

K：あとは

N：海にながした。このごろはもうながせん。仏船（精霊船？）もながせん。

K：お月見は？

N：したりせなんだり…かくべつなんもしなかった。昔は（団子つくりとか）しよった

K：流れ星は？

N：あったけど、（いわれは）なかった。一番覚えてるのはヨアケボシだけ。ここに戻るのに必要だった。

K：讃岐の方に…南のほうに見える星はなかった？

N：なかった。

K：（古屋に）（質問は）なにかありますか？

F：季節的に、いちばん、星を見る機会が多かったのは夏でしたか？

N：夏は多い。春も。夏休み（船に）乗ることが多かったし。

K：新暦に直すと5、6、7くらい？

N：中学3年卒業したら、もう1人で

F：一人で船に？

N：親父が年取ってたし、ひとりのほうが早い。7人兄弟で男は自分一人。

上三人下三人上から下から数えても4番目じゃ。一人で帰ってきたら捕まったことある。

何してる？って。船の許可も登録番号もあるし魚を取って売って帰るんじゃ。と

気を付けて帰れよ、と言われた（笑）

K：小学校5・6年だと昭和23、4年？まだ時計とかなかった？ヨアケボシ

N：25、6年で時計あったかな

K：戦後数年ですかね、

N：昭和24、5年くらいはもう乗ってた。親が歳いったから。